

中間評価報告書

総合理工学研究機構運営委員会 平成27年10月16日(金)

研究課題	新しいバイオマーカーを利用した山梨県の有用植物等資源の探索と活用	
研究期間	平成26年度～28年度	
	評価項目	平均点
	研究の進捗状況	3.3
	研究内容の妥当性	2.8
	目的達成の可能性	2.8
	期待される研究成果	3.3
	研究継続の必要性	3.3
	総合評点	3.1
<p>ここまでの研究の過程の中で、本課題を進める上での幾つかの問題点が生じている。</p> <p>まず、各資源抽出物の腎機能保護効果が、活性物質の投与では逆の結果が得られており、理論の正当性に疑問が生じてしまっている。このため、抽出物と相当量の活性物質の投与においても、腎機能保護効果が認められるか否かを確かめておく必要がある。一方、H-ORAC値と腎機能障害抑制効果の関連性が不明確であり、投与量は効果に大きな影響を与えると考えられるが、本課題はこの点に関しても不明瞭なため、投与量の最適化の視点が必要である。最終的には、有効成分の特定(固定)を目指してほしい。</p> <p>上記の内容に加えて、本研究の着地点をどこに定めるかしっかり確立しておく必要がある。単に「健康に良いらしい」というレベルでは産業には決して結びつかない。本研究の着地点として機能性食品を目指すならば、その探索必須項目を明白にした上で、目的に到達できるよう研究計画・手法を根本から見直していく必要がある。「生薬」としての究極的な効能に着地点を求めるならば、相当な人的、経済的、時間的な必要性を覚悟しなければならない。</p> <p>なお、研究計画・手法の見直しについては、当該分野の専門家に意見を伺い進めることが肝心である。</p>		